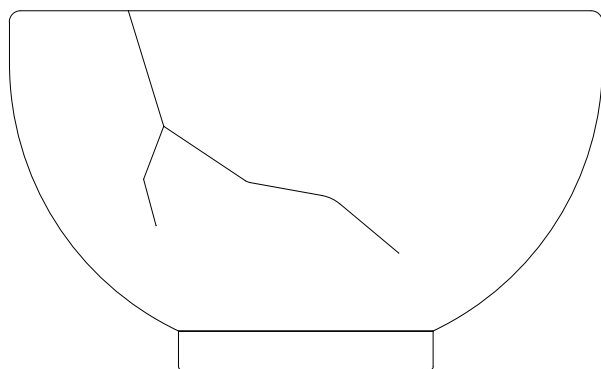
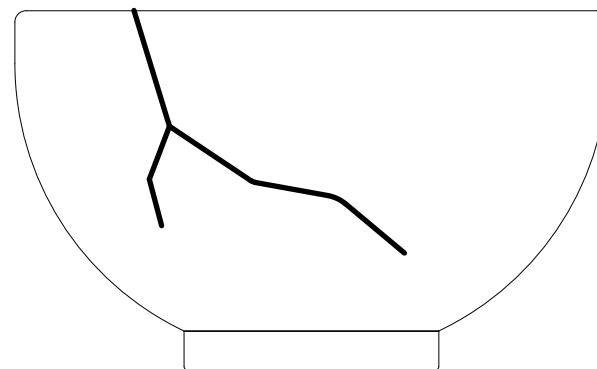


ヒビの繕い方について。

ヒビの繕いは、ヒビに漆を充填してヒビを接着させます。特に繊細な絵付けを邪魔したくない場合など、充填のみで漆の華奢な線で仕上げます。隙間がほとんどないヒビにそって溝を掘ることで表面に漆の乗る幅(溝)ができ、繕い面積が大きくなることでより強く繕うことができますが、仕上がりの線はヒビよりも太くなります。(図示)



側面

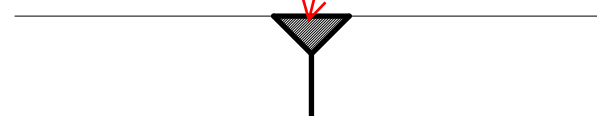


釉薬の上は漆が凝着しません。細い線の上に化粧仕上げをした場合、摩耗により削れ飛ぶことが多いです。



断面

漆が乗る面積(溝)を作ること、仕上げの化粧も凝着しやすく、また接着部分の強度もあがります。



漆工芸では器の中にできるお直しの線を景色といいます。ヒビの太さに強弱を付け意図的に景色を作ったり、ヒビが深く割れる寸前のものは、わざと割ってしまってから接着した方が、強く、美しく仕上がる場合もございます。お品物の材質や釉薬、また破損の状態により、より良い方法を選択させていただきますので、繕い方法はお任せください。